

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800030		
法人名	堀建設株式会社		
事業所名	グループホーム悠心彩・中西		
所在地	島根県益田市市原町イ434-1		
自己評価作成日	平成22年3月6日	評価結果市町村受理日	平成22年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成22年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念どおり「健やかに・穏やかに・にこやかに」尊厳のあるその人らしい暮らしを支援できるように スタッフ全員で取り組んでいます
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設来1年が経ったところだが、地域との交流や家族とのコミュニケーションを積極的にとり、利用者にアットホームな雰囲気の中で笑顔で暮らしてもらいたいと利用者の思いやペースを尊重したケアを行っている事業所である。地域の文化祭にはお手玉や折り紙の作品を出展したり、登下校する小学生と挨拶を交わし日常的に交流している。朝の散歩やストレッチ、リハビリ体操、嚥下体操を行い、機能の低下予防に力を入れている。職員間のチームワークも良く情報を共有しながら利用者主体のケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中の大家族として支えあえる町づくりを目指し健やかに穏やかにこやかに寄り添い敬い合いながらその人らしく生活できるよう実践している	職員は地域密着型サービスとしての事業所の理念に共感し、日々利用者が安心して生活できるよう理念を活かしたケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており自治会開催の運動会や敬老会に招待され文化祭にも参加している。又小学生との交流もあり登下校時の声掛けや事業所内でのゲームに興ずることもあり英気を養っている	開設して間もないが、自治会に加入し、地域や小学生との交流を積極的に行っている。声をかけてもらったり花をもらうことも多く、地域の人に温かく見守られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修の場として提供している他、地区の文化祭への作品展示と共に地区民と交流をしたり、事業所の運動会に地域の方の参加を得たりボランティアさんに理解が得られるよう支援している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	有識者の意見を参考にケアの取り組みをしたり会議の内容を職員間で共有しサービス向上へ活かしている	ホームの状況や事故報告、インフルエンザ対策などを話し合い、出席者から意見をもらったり情報提供や地域行事への誘い、提案などが出されている。意見はケアや運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情を伝えアドバイスを頂く他運営推進会議に出席頂いている	担当者からその時々合わせた情報提供があったり、相談事などある時は気軽に聞くことができる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を正しく理解し施設内からは自由に出入りできるようになっている。身体拘束は原則としてせず目配りを行っているが止むを得ず必要となった場合はマニュアルに添って短期間にする	学習会を行い身体拘束への理解を深めている。日々の関わりの中で思い当たるような場合は、ケアが身体拘束につながっていないか職員間で話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について話し合いの場を持ちお互いに注意し合いあってはならない事としている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についても学び必要性については支援できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時の説明とその都度理解が得られるよう説明をさせて頂き納得を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年は初めての家族会に全員の参加があり親睦と共に意見の集約が出来た。面会時電話等での相談又報告もさせて頂く。ご意見箱も設置しており自由に記入できるようにしている。	家族の来訪時に意見を聞いたり家族会総会で意見交換している。総会には家族が全員参加し、家族と職員との良い関係ができています。	家族と職員との良い関係が築かれているので、さらに利用者を共に支えるチームとしての協力関係を構築されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「言いたい事カード入れ」が設置しており職員から代表者や事業所に対し自由に意見や提案ができる仕組みがあり回答が得られる	職員の声を運営者に伝えられるように「言いたい事カード入れ」が設置されている。意見に対しては運営者から回答をもらっている。	システムとして運営者に声が伝わるようになってきているので、積極的に意見、提案を伝え共にサービスの向上に取り組んでいただきたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者を優遇しやりがいのある職場づくりを目指すとともに給与水準の向上を図り職場環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながらトレーニングをし力量に合わせて研修の機会を与えている・事業所内研修は毎月行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域内の管理者が集う場に参加しスキルアップを図ると共に職員間の交流を深め質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の要望にあわせ、ご本人の気持ちを大切にできるよう配慮している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向を大切に信頼関係を結び何でも話し合える関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム内の雰囲気を知って頂くため事前の来所や体験入所ができるよう配慮している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一家族として体調に考慮しながら出来る事を共に支えあいながら関係作りをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の微笑ましい状況をお伝えしたり面会時には居室でゆっくりコミュニケーションを取れる環境で絆を大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は自由であり馴染みの関係の方が多く来訪され時には友人と外食を楽しまれている又故郷訪問を計画し実施している	友人の訪問や、法事や結婚式への出席、ふるさと訪問、墓参りなど、家族と協力しながらこれまでの人や場所との関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の生活暦を大切にしながら孤独にも配慮しスタッフは常に気配りをしておりレクリエーションも集団と個別のもので楽しめるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族支援を行い相談に応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族と相談しながら表情等で本人の意向を汲むようにしている又困難な場合はご家族と十分話し合い環境整備も考慮している	言葉や表情などから思いを把握したり家族の協力を得て希望に添う暮らしの支援をしている。相談役として第三者の人の訪問があり、希望の把握に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮すれば聞き取り難い場合もあるが生活歴を大切に生活環境に努めている・馴染みの暮らし方ができる和室も用意している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムで無理の無い様趣味等を通し自然な取り組みとしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当を決め看護師等と連携しご家族に意見を求めながら計画を立てている	担当制をとり担当者が他の職員と話し合ったり情報を得ながらプランを作成し、毎月モニタリングしている。	できるところから家族も同席してのプラン作成に取り組まれることを望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のバイタルや食事量排泄や水分量等々気づきを個別ファイルに記録しご家族に開示し介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご希望により美容院等へでかけたり外泊時の送迎等のニーズに柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望により近くの空港や公園や海岸等へ出掛け、地区のボランティアによるお楽しみ会もある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	大半の方が往診を受けられる中、かかりつけ医へご家族が付き添われて適切な受診が行われている	定期的に往診がある。家族の希望でかかりつけ医に受診する人もいる。状態に変化がある時は家族に相談し意向を確認して適切な支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時看護師と連携が取れ職場内での情報の共有が出来ている、緊急時においても受診や相談が安易にできるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合はご家族と相談し早期の退院ができる体制としており医療機関にも出向き情報を得る		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りのマニュアルは出来ているが未だその状況に無くご家族としっかり話し合いながら看取りを行う予定としている	医療内容によっては対応困難であるが、利用者、家族の希望や状況によっては看取りケアも考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	殆どの職員が救命講習を受けており実践に向けてシュミレーションをしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練をし全職員が避難場所等の把握はしている・消防総合訓練の際は地区の方も参加されている	定期的に避難訓練を実施し、職員は夜勤に入る前には必ず消火器や通報装置などのシュミレーションをしている。居室の絨毯も防炎性の物にするよう消防署から指導があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を重視し声掛けには特に注意した対応をしている	入浴時や排泄時にはプライバシーへの配慮を行い、個人情報についても秘密を厳守している。起床や食べたい物など利用者の希望を尊重した生活の支援をしている。	認知症に対する研修を継続して行われることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や表情からご本人の思いをくみとり選択肢を用意して自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事時間等はその人のペースにあわせ自由に行っている又活動についても希望にそって支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の乱れの無い様配慮しネイルケアや整髪についても支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が献立を立てるが1の日には希望を聞いたり少しメリハリをつけており職員と共に食事を摂り準備片付けも共に行っている	昼食は小規模多機能事業所と併せ厨房で作られた物を利用者が盛り付けている。夕食の準備は一緒に行っている。職員も同じテーブルを囲み和やかな場面作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量を記録し一日の水分量を把握しており状態の確認をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる方については声掛けのみで出来ない方には義歯の洗浄や残歯のブラッシングを支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員の方の排泄状況を記録している・訴えの困難な方については時間や表情や行動でそっと誘導し失敗を防ぐようにしている	利用者の様子を見てトイレへ誘導したり、拒否のある人にも声かけの仕方や声をかける人を変えてトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時にコップ一杯の水分を摂って頂いていることとリハビリ体操の実施、飲食物の工夫と困難な方には下剤が処方されている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り希望にそうようにしており職員の都合にならない様気をつけている	夕食前を希望される人が多く希望に沿って支援するようにしている。入浴の準備を一緒にしたり、ゆっくり入浴できるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要な方には午睡も勧めている特に昼食後は居室で自由に休息されている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導の下情報を得ている・薬の内容については見易いところへファイルしてある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとにご利用者の知恵や経験が活かされる場面がありドライブや地域の行事に出かけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望とまではいかないが随時出かけるようにしている	ホーム周辺は広々としていて散歩や筋トレをしたり畑で野菜を採るなど外気に触れる機会を作っている。職員が声をかけて買い物、ドライブに行ったり、りんご狩りなどを計画し出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方の金銭管理はご家族任せでご家族の意向でショッピングにいかれる方もある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手作り葉書を作りご家族の方に近況報告の葉書を出したり電話での声のやり取りの支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂へ季節の花を生けたり軽音楽を流したりテレビの音量も状況に合わせて調節をしている又和室で寝転んで過ごせるなどリラクスの場もある	季節の花や行事の写真、交流のある小学生の手紙などを飾っている。ソファや炬燵があり自由に過ごしたり、広々としたウッドデッキで外気浴を楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファで気のあった方と過ごされたり居室で一人になられたり自由に居場所づくりができている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具をお願いしているが中にはホテル住まいで自宅に帰れば馴染みの部屋があるとお考えの方もありご家族のコーディネートにお任せしている	家族とも相談をしながら利用者に合わせた居室作りをしていて、好きな犬の写真や花、家具、お茶道具、神棚など持ち込みその人らしい環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内外はバリアフリーとなっているが手摺を利用してストレッチ等に励み下肢筋力低下予防に努め居室には表札をかけている		